

## 研究概要

本研究では、観光地での「意識から行動」に至る人流を計測し、過密化や過疎化の影響を評価します。私たちはリアルタイムに人々の動向を捉え、混雑度や分散を測定する技術を開発しています。

## .palの概要

観測には、我々が開発している「.pal」を使用します。「.pal」は、ユーザーの位置情報に基づいて、周辺でのトレンドやイベント情報をバブルマップで表示する情報プラットフォームです。観光客がどのようなイベントや場所に関心を持ち、実際にどの場所に足を運んでいるかを視覚的に捉えることが可能です。



## 過去の実証実験の結果

過去に広島大学で行った実証実験では、バブルの大きさに応じてクリック数が増え、大きなバブルがより多くの注目を集めるという結果が得られました。これにより、視覚的な情報がユーザーの行動に与える影響を確認できました。

## 今後の展開

東広島市との共同実証実験では、観光地や都市部での人流をリアルタイムで追跡し、観光客や地元住民の「意識」と行動の関係性を解析します。興味関心や移動パターン、混雑が発生する時間帯などのデータを収集し、過密化しているエリアと過疎化しているエリアを特定します。

データを評価する際には、まず「人流の集中度」や「人流の分散度合い」を計算します。特に、イベントが開催されている時間帯や観光客の流れが集中する主要な通りで、どの程度の人口密度が観測されるかを評価し、過密化の程度を数値化します。逆に、観光客や住民の滞在が少ないエリアを過疎化エリアとして定義し、適切な対策を検討します。

このプロジェクトの一環として、リアルタイムで人流を予測する「動的混雑予測モデル」を開発し、ユーザーには代替ルートや空いているスポットを提案する通知を送信します。また、過疎化エリアではイベントやプロモーションを通じて訪問を促進し、人流のバランスを整えることを目指しています。

